

直播コシヒカリ(鉄コーティング) の栽培ごよみ (JA米生産基準)

収量構成の目安	
収 量 構 成	目 安
m 当 たり 苗 立 数 (㎡当たり苗立数) ^(本)	21 (40～80)
m 当 たり 穂 数 (㎡当たり穂数) ^(本)	110 (360)
平 均 1 穂 粒 数(粒)	70
㎡ 当 たり 粒 数(百粒)	252
登 熟 歩 合(%)	85
玄 米 千 粒 重(g)	23.0
10 a 当 たり 収 量(kg)	500

- 栽培のポイント
- ①均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める

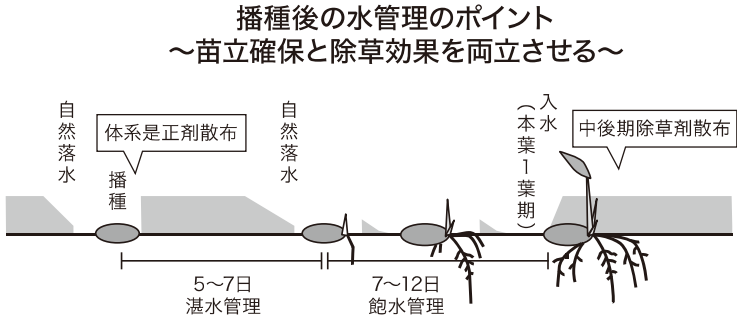
②播種量は乾粒換算で3.0～3.5kg/10aとする

③播種時のほ場の硬さは、種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度
(右写真参照)

④播種後5～7日は深水(水深5cm程度)による湛水管理。その後は、イネ本葉1葉期まで飽水管理を行う。ただし、スズメ被害ができれば湛水する

⑤確実な中干しで適切な茎数に誘導する

⑥出穂後20日間の湛水管理の徹底



鉄コーティングとカルパーの播種深さ

表面播種

土中播種

鉄コーティング

カルパーコーティング

チェック!!
土中5～10mmが理想

播種深さが違う

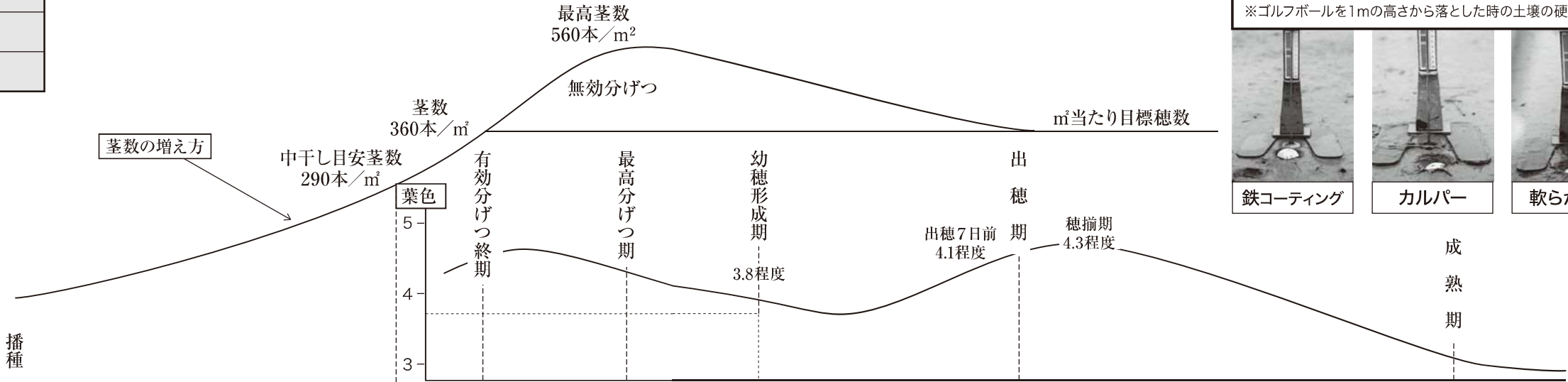
鉄コーティング

カルパー

軟らかすぎ

播種時の土壌硬度の目安

※ゴルフボールを1mの高さから落とした時の土壌の硬さの違い



月 日	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10月		
	4/25		5/1		6/19		7/5		7/18		8/8		9/20		
生育期区分	(ほ場および種子の準備)		播種期	出芽・苗立期	有効分げつ期		無効分げつ期		稲体組織充実期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登 熟 期		収穫期	土づくり
水 管 理		浅水代かき	湛水管理	飽水管理	浅水管理 (本葉1葉期)	溝切り、中干し		間断かん水		飽水管理		湛水管理	間断かん水		
栽 培 管 理 の ポ イ ン ト	ほ場および種子の準備 ○播種前には必ずコーティング種子の発芽率を確認する。 ○コーティングの翌日以降は水の噴霧と攪拌で酸化を促進させる。 ○コーティング種子はすぐに薄く広げ酸化乾燥させる。 ○FS剤を使用する場合は、使用量を遵守する。 ○浸種積算60℃の種子に鉄コーティングする。 ○ほ場内の高低差を直しておく。														
	安定した苗立ちの確保 ○イネ15～20葉期に2回目の除草剤を散布する。 但し、低温が予想される場合、田面が隠れる程度に入水する。 ○出芽が確認されるまで水を落とし、田面が湿っている状態を保つ。 ○播種後5～7日間は湛水管理を行う。 ○播種同時または直後に除草剤を散布する。 ○施肥溝が残る程度のほ場の硬さで播種する。														
	適正な中干しの徹底 ○茎数が少ないほ場では中干しを遅らせる。 ○中干し後の水管理は間断かん水を行い、干しすぎない。 ○中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分げつを抑制する。 ○中干しは溝切後直ちに開始する。														
	いもち病・紋枯病防除の徹底 ○FS剤を使用していない場合は、6月20日頃までにオリブライトを散布する。 ○畦畔・農道の草刈りを徹底する。														
	適切な葉色に誘導する ○幼穂形成期以降は飽水管理を行う。														
栽 培 管 理 の ポ イ ン ト	病虫害防除の徹底 ○穂揃期は43程度の葉色を目標とする。 ○出穂7日前の葉色が40以下の場合は直ちに追肥を7 kg／10 a施用する。 ○幼穂形成期の葉色は38程度に誘導する。														
	基本防除を徹底する。 ○胴割米の発生防止とカドミウムの吸収抑制のため、出穂から20日間														
	稲体の活力維持 ○の湛水管理を徹底する。														
	落水を急がない ※ただし、ほ場状況に応じて落水時期は調整する。 ○刈取り予定日の5～7日前までは間断かん水する。 ○フェーン時は事前に入水して、品質低下を防ぐ。														
	遅れないようにする。 ○刈取適期表示を目安に刈取を行い、胴割れが発生しやすいので刈														
栽 培 管 理 の ポ イ ン ト	稲の黄化率85～90％程度が刈取適期														
	地力増強に努める ○雑草が多かったほ場では、刈取後に雑草に応じた除草剤を散布する。 ○稲わらの腐熟を促進させるため秋耕を行い必ず排水溝を掘る。 ○シリカロマンは10 a当り100 kg以上施用する。 ○土壌診断に基づく土づくりの実施。														